

# 就学義務猶予免除者等の中学校卒業程度認定試験

令和3年度 国 語 (40分)

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は全18ページです。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落<sup>らく</sup>丁<sup>ちよう</sup>・乱<sup>らん</sup>丁<sup>ちよう</sup>及び汚れ等に気付いた場合は、手をあげて試験監督者に知らせなさい。
- 3 試験開始の合図の後、受験地、受験番号、氏名を解答用紙に記入しなさい。
- 4 解答は、各設問の指示に従い、全て解答用紙の解答らんに記入しなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってかまいません。

1

次の1から5までの問いに答えなさい。

1 次の①から④までの各文の——線部のカタカナの部分に当たる正しい漢字を、それぞれのアからウまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- |   |                             |   |    |   |    |   |    |
|---|-----------------------------|---|----|---|----|---|----|
| ① | 職業に <u>ツ</u> く。             | ア | 付  | イ | 着  | ウ | 就  |
| ② | ボタンを <u>ト</u> める。           | ア | 留  | イ | 泊  | ウ | 停  |
| ③ | 新しい制度に <u>イ</u> コウする。       | ア | 意向 | イ | 以降 | ウ | 移行 |
| ④ | この件については会議で <u>ケ</u> ントウする。 | ア | 健闘 | イ | 検討 | ウ | 見当 |

2 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、それぞれのアからエまでの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

- |   |                      |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|----------------------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | 自分の役割を <u>ズ</u> 行する。 | ア | ついこう | イ | すいこう | ウ | けつこう | エ | たいこう |
| ② | 歴史を <u>リ</u> みる。     | ア | あおぎ  | イ | かいま  | ウ | かえり  | エ | ながめ  |

3 次の①と②の各文の——線部の漢字の正しい読み方を、解答らんにひらがなで書きなさい。

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| ① | 手土産を <u>カ</u> えて訪問する。 |
| ② | 広く <u>カ</u> 及する。      |

4 次の①と②の  に当てはまる漢数字をそれぞれ書きなさい。

①  者扱一

②  方美人

5 次の①と②の言葉の類義語を、それぞれのアからエまでのの中から一つずつ選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

① 手段

ア 傾向

イ 形式

ウ 法則

エ 方法

② 性格

ア 良心

イ 気質

ウ 格式

エ 質感

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのAからEまでのの中から最も適切なものを選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

## 私たちの眼は二眼レフ

若い人は見たことがないでしょうが、昔はレンズが二つの「二眼レフ」と呼ばれるカメラがありました。二つのレンズで焦点を合わせて写真を撮るのです。

私たちの商品を見る眼は、値段と品質を両にらみの「二眼レフ構造」と言えます。<sup>1</sup>  
すなわち、

○品質が落ちると値段がそのままでは買わない

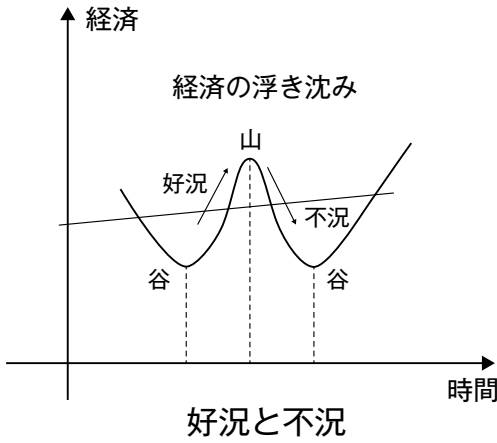
○品質が上がれば値段が上がってもかまわない

よく言われるお買い得、お値ごろというのは、値段に照らして品質が高いことを指しています。

この二眼レフ構造は、供給側、売り手にとってはとてもやっかいなものです。需要側、買い手の品質や商品価値を見る眼はとても厳しく、それが値段と釣り合っていないければならぬし、おまけにその見る眼が常に揺れ動いているのです。需要の変動はとても激しいものがあります。売り手は、その変動に合わせる必要があります。必要なわけです。これは、一人一人の売り手だけの話ではなく、経済全体でも需要の減少についていけず、供給過多になるのが不況ですし、逆に需要があるのに、供給が足りないときには好況につながっていきます。私たちの二眼レフに対応することは、それだけ供給側にとっては大変な難問であることがわかります。

例えば、野菜、果物の品質の決め手は何といっても「鮮度」です。生鮮品は一日経たば、必ず鮮度が落ちます。鮮度が落ちると、それが値段に反映されないと、買い手は買わなくなります。

同じように、こうした生鮮品には「旬」という盛りどきのときがあります。旬のときは、需要側が盛り上がるのに、少しでも旬がすぎると、値段が下がっても買わなくなります。



このように、しっかりと値段と商品価値を両にらみでチェックする需要側の二眼レフは、供給側にとっては、確かに厳しいのですが、私たちの二眼レフに供給側もうまくピントを合わせることができれば、それこそ双方が得する関係になります。

### 人によって値段の見え方は変わります

しかし、値段は簡単なものではありません。私たち一人ひとりの懐具合、生活の仕方などによって、値段の見え方も変わってきます。例えば、1000円は、社会人の人たちにはそれほど高く感じない人もいるかもしれませんが、一日1000円で暮らす学生たちには決して安い値段とは言えません。売り手側としては、どのような消費者にその値段を見せるか、伝えるかという判断が求められることとなります。

また、もう一つ、私たちはその値段を見て、その商品にその値段で買うに値する価値があるかどうかを見極めますが、それも難しいことです。そもそも価値とは何でしょう。実は買い手は売り手ほどその商品の品質を知っているわけではないという問題がここで現れてきます。

例えば古着市場を考えてみましょう。古着は前の所有者が使うのをやめて古着屋さんにとっていったものです。しかし、本当にいいもの、商品価値のあるものなら、果たして古着屋に持っていくでしょうか。だから古着屋に売っている古着はそれほどの商品価値がないものではないかと普通は考えられます。とすると、古着屋に一度は出そうと考えた人も、古着屋に出してもいい値段はつかないから、古着屋に出すのはやめようと考えます。普通は皆がこう考える中で、古着屋が成り立っているのはすごいことでもあります。古着屋の主要な客は、学生たちです。彼らは限られた予算の中で、満足できるものを見つけた姿勢を持っています。古着を着こなすこともファッションで、自分だけがその古着の良さを見いだすことができるなら、例えば「この古着の1000円は支払う価値のあるいい値段だ」と見てくれる可能性もあります。

このように、値段がその商品価値という情報を正しく伝えているかどうか、その情報を通じて、買い手、売り手の動機にしっかりと働きかけているか。値段の役割は経済にとっても重要なことがわかります。

(徳田賢二著『値段がわかれば社会がわかるはじめての経済学』による。)

(注)二眼レフ……ピント合わせのために、撮影用レンズとは別に、焦点調節用のレンズをもつカメラ。

1 私たちの商品を見る眼は、値段と品質を両にらみの「二眼レフ構造」と言えます とあるが、「二眼レフ構造」とはどういうことか。

ア 品質の落ちた商品の値段が低下するのを期待すること。

イ 商品の値段と品質が釣り合っているかを確認すること。

ウ 品質の変動にのみ焦点を合わせて価値を判断すること。

エ 商品の値段がお買い得で需要の高いものを求めること。

2 文章中のグラフにおいて、「山」と示されている部分は、どのような状態だと考えられるか。

ア 需要があるのに、供給が追いついていない状態。

イ 需要があるので、供給を控えてしまっている状態。

ウ 需要がないのに、供給が過度に行われている状態。

エ 需要がないので、供給が抑えられている状態。

3 値段は簡単なものではありません とあるが、なぜか。

ア 買い手は売り手より商品の品質を知っているので、売り手の得になるような値段を設定するのは難しいから。

イ 値段を下げれば下げるほど売り上げは増えるが、値段を下げることはどの売り手にとっても困難なことだから。

ウ 値段が旬や鮮度を正しく反映しているかどうかは、売り手にとっても買い手にとっても判断しにくいことだから。

エ 値段の受けとめ方は人によってさまざまなので、売り手は買い手の立場を考えて値段を決める必要があるから。

4 古着屋が成り立っているのはすごいことでもあります とあるが、なぜ古着屋は成り立つのか。次の文に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って十字以内で書きなさい。

普通は商品価値がないものと考えられる古着に


人がいる

5 値段の役割 とあるが、どのような役割を担っているのか。

- ア 売り手にその商品は誰にとっても価値のあるものだという印象を与える役割。
- イ 売り手にとって不足しがちな商品に関する情報を補い商品価値を決める役割。
- ウ 買い手の年齢層によって異なる懐具合や商品に対する価値観を統一する役割。
- エ 買い手が自分にとって買う価値のある商品であるか判断する基準となる役割。

6 この文章の特徴について述べたものはどれか。

- ア 専門家の意見を引用して、値段が売り手と買い手を結ぶ役割を担っていることを簡潔にまとめている。
- イ 需要と供給の二項対立を用いて、双方が値段に対して抱くイメージを比べて情報を整理している。
- ウ 身近な例や比喻を用いて、値段が消費者にもたらす影響や値段が担う役割を具体的に説明している。
- エ 筆者自身の体験から問題を提起し、値段に対して多くの人が抱く疑問点を整理して主張をまとめている。

次の文章を読んで、後の1から6までの問いに答えなさい。記号で答える問題は、それぞれのAからIまでの中から最も適切なものを選び、解答らんの記号を○で囲みなさい。

慢性的な部員不足に悩む離島の渚台高校に、四人のスプリンターが奇跡的にそろった。そのうちの一人、脊尾（オレ）は、陸上競技の名門、秀川高校陸上部に所属していたが挫折し、転校してきた。走ることの意義を見失っていた脊尾であったが、渚台高校陸上部監督に誘われ、400メートル走とヨンケイ（400メートルリレーのこと）に取り組むことになる。そして、一年後輩の受川と雨夜、同い年の朝月と、チームワークが十分とは言えないまま、インターハイをかけた最後の支部大会に出場することになった。

午前中の100メートル走で、雨夜と朝月が決勝に残った。

雨夜の走りは、今年の初めとはまるで別人のようだった。今までの走りには、スタートに何か焦りのような、それ故に空回っているような、無駄な力みがあった。今日の走りは、自然だ。非常に。美しくすらある。チーターみたいに、しなやかに走る。

朝月は相変わらず安定した走りです。11秒前半を出している。なんていうか、サイボーグみたいだな。いつもきっちり同じ走りだ。才能があり、かつ不断の努力を重ねてきたタイプ。秀川時代にも似たようなやつを見たな。

ぼんやりしている場合じゃない。オレはちんたら400のアップに向かう。

400を公式戦で走るのには、ずいぶん久しぶりだった。中学以来だ。今までコンディションをどうやってピークに持っていたのかわからなくて、どうテンションを上げていけばいいのかわからない。とにかくモチベーションがない。

400ってのは微妙な距離だ。人間はそんな長い距離を全力で走ることはできない。かといって、長距離でもない。マラソンと同じペースで走ったら話にならない。ちなみに世界記録は43・03秒だ。考えたくもないが、ウチのヨンケイより速いのだ。嘘だろって思うけど、そう考えると400のスピード感がなんとなくわかる。ちなみに高校記録は45・47秒で、これもそこのヨンケイより遙かに速い。支部の大会だったら、47、48秒台のリレーチームなんかごろごろしてる。



オレのベストは50秒台、まあ支部の大会で40秒台出すやつなんかそういないから、ベストが出れば都大会は十分あり得る。でも、出る気はしない。決勝のラインは53秒ってところか。そこまで行ければ、まずまず……。

アップを終えて十時四十五分コール。付き添いには新山（注2）にいやまがついてきた。別にいいよ、と言ったけど、勉強させてください、と目をキラキラさせて言われて断り切れなかった。

「脊尾先輩って、400専門だけど100も200も速いって聞きました。すごいですね。オールラウンダーって感じで」

新山は人懐こいタイプで、受川みたいに話しかけんオーラ全開の先輩にも平気で話しかけに行く。（注3）コミュ力の低いうちの陸上部としては、貴重な存在だ。男子版の酒井（注4）さかいちゃんみたいな感じ。

「どうかな。全部中途半端なだけだよ」

オレは苦笑いしつつ、あながちそれが謙遜でもないことを自覚している。

「でも全部走れるって、それだけタフってことじゃないですか。かつこいいですよ。先輩、フォームも綺麗（注5）きれですし」

「あ……：：：：：そうな。ちょっと集中したいから静かにしてもらっていい？」

無理やり会話をぶち切ったけれど、別に静かでもうるさくても集中なんかできなかった。

気持ちが入っていない。

浮ついている。力が入らない。

スパイクに足が綺麗にはまらない感じ。

そういう気持ち悪さ。というか、違和感。

だめだ。これはろくな走りができない。

もう頭がずっとふわふわしていて、スタートラインについたときも全然集中していなかった。

ピストルの号砲を聞いて飛び出し、走り、でもレース展開なんかちっとも考えられていなくて、自分がどこを走っているのか、今何位なのか、どれくらいスピードで走っているのかもわからなくて……：：：：：なんだか、世界と薄い膜で隔てられている感覚だ。そこにいるのに、いない。走っているはずなのに、走れていない。（注2）足がすかすかと空を切っている。

タイムは54・59秒。

普通に予選落ち。わかった瞬間に笑ってしまつて、オレはもうだめだと思つた。

100の決勝は十三時二十分からだった。雨夜の付き添いには受川(予選落ちしている)がついていき、朝月の付き添いには新山がついていった。

オレはスタンドから試合を観ていた。朝月は予選同様安定した走り、11・15秒をマーク。少しタイムは悪いけど、決勝だし流してなかつただろうから、風のせいかな。まあそれでもトップ八位のタイムには残れているだろう。都大会圏内。おそらく。

雨夜のレースは、予選よりもさらにキレが増していた。

スタートから無理のない加速、前傾姿勢からどんどん<sup>ま</sup>ピッチを上げてスピードに乗り、そのピッチが後半になつても下がらずその組の中ではぶつちぎりのトップ。前の組がかなり速かつたから、全体だとやや順位は落とすだろうが、これは行つたな。速報タイムで自己ベストタイが表示され、雨夜は嬉し<sup>うれ</sup>そうだった。ああ……なんだろうな。「オメデトウ」とつぶやいたけど、虚しく響く。自分の中で、今の雨夜の走りが、雨夜の変化が、すげえ痛い。自分に刺さってくる。目を逸<sup>そ</sup>らしたくなる。逃げたくなる。これ以上、もう、逃げる場所なんかどこにもないのに。

「都大会行くぞ！」

十五時十五分。リレーの招集時間だ。四人で円陣を組み、朝月が気合を入れている。受川と雨夜が声を出している。オレはいまいち気の乗らない声をあげたが、出てなかつたかもな。だめだ。このままだとまともに走れねえ。いや、もう別にいいか……今日のリレーと、あとは明日の200に出る予定だが、全部予選で落ちてしまえばインターハイへの道はそれで終わる。夏まで他にでかい大会はない。さつさと引退して、ジ・エンドだ。

持ち場につくまでの間も、ついてからも、心はずつと浮ついていた。

走るのに気持ちなんか関係ねえだろうって思う。

足さえ動かしやいいんだから。きつちり練習してきていれば、自動化されて、体は勝手に動くはずだ。

でもメンタルって、そんなに単純じゃない。

練習でできていても、試合で百パーセント出すのは難しい。

ましてやオレは今年、練習でちゃんとできていない。

それが試合で百パーセントになる道理なんか、あるはずもない。

陸上はそんな甘くない。だからオレは400で予選落ちした。

でもリレーは、オレだけじゃない。受川、雨夜、朝月も走る。少なくとも、オレよりはベストを尽くしてきたであろう三人。オレはこれから、その足を引つ張るわけだ。

今さらの罪悪感だ。馬鹿じゃねえの。どうにもならねえ。

「オン・ユア・マーク」

ここからは一走が一番遠い。あまりよく見えないし、オレは見もしない。「セット」

一瞬遅れて、ピストルの音。そこでようやく顔を上げて、レースを見た。

受川が走っている。背が高く、長い手足を活かした大きなストライドでぐんぐん距離を稼いでいく。でもやつ真骨頂はそのコーナリングの上手さだ。あの長身が内傾すると、かなり傾いでいるように見える。けれどバランスを崩すことなく、たとえ一番内側のレーンでもあのでかいストライドで綺麗に最短距離を走る。200走者としては当たり前前の技術だけど、その精度が高い。上手いやつのコーナー走って、この世にカーブ走ほど簡単なものはないように見えるから不思議だ。

二走へのバトンパスで、ようやく順位がぼんやり頭に入ってきた。選手が重なってよく見えないが、たぶん二位か三位。雨夜がぐんぐんと飛び出していく。出が早いように見えたが、最近の雨夜はじっくり加速することを大事にしているようで、その間に受川が追いついていく。バトンパス。雨夜の手が上がり、すぐに受川がバトンを渡す、受け取る、そのまま雨夜がスーッと加速して、どんどんピッチを上げていく。

そのバトンパスを見たとき、心臓がどくと強く脈打った。

なんだろう。その美しいバトンパスに、妙に心が躍った。それまで何を考えていたのかを、<sup>4</sup>忘れた。

雨夜はバックストレートを薦進し、その間にトップに躍り出た。トップスピードになつてからもピッチが落ちない彼は減速幅が小さく、そのまま二位との差を広げてオレのところへ駆けてくる。

速いな。加速走だと、100よりもずっと速い。

オレはふと、足長のことを、何も雨夜と相談していなかったことに気がついた。いつも通りの足長だ。でもこの勢いで来られると……たぶん詰まる。

一瞬の判断だった。

実際のマーカーの手前に、頭の中で半足延ばしたマーカーを置いた。

雨夜がそれを越えた瞬間、全力で出た。

それでもすごい勢いで背後から雨夜の足音が迫ってくる。

オレはその音から逃げるように、必死に両手を振って加速していく。

「ハイッ」

思ったよりも早いタイミングで合図がきた。オレは無我夢中で手を上げた。

バトンがぐつと押し付けられ、そのバトン越しに、背中を強く押されたような気がした。

風が吹いている。

気がつくと、すいすいと足が動いている。

風に押されるままにカーブを抜ける。

足をすんとすとん、と狙った場所に置いていくだけ。

ただ、走る、走る、走る――。

気持ちがいい。

何も考えなかった。

ただ走るだけ。それ以外のすべてを削ぎ落とす。

シンプルだ。なんてシンプルで、美しい行為だろう。

マーカーを越えたことは自覚していなかった。

目の前に朝月の背中が迫り、「やべっ」と思った。いつもこんなスピード出てないから、これは確実に詰まる。朝月も出足を調整する余裕はなさそうだ。ええい、ままよ。

「ハイッ」

バトンを受け取った朝月にぶつかりながらも押し倒さないようになんとかつんのめってこらえ、その隙に朝月はだーっと駆けていった。バトンパスがもたついたんで一度抜かれたが、60メートルあたりで抜き返してトップを奪還する。こういうときのあいつの走り、安心感があるな。バトンが詰まらなかったらもっと速いだろうけど、詰まってもこのスピードが出る安定感。やっぱアンカーに選ばれるだけのことはあるよな、おまえ……。

朝月はそのままでゴールし、オレは速報タイムが43秒台であることだけ確認した。

ああ、すげえな。

一瞬で縮んだよ、タイム。

これがリレーのすげえところだ。

<sup>6</sup> なんか馬鹿馬鹿しくなる一方で、清々しい。すがすが

両手を腰に当てて天を仰ぎ、今さらのように今日がいい天気であることに気がついて、笑っちまった。遅エおそって。

(天沢夏月『ヨンケイ!!』による。)

(注1) アップ……ウォーミングアップ。

(注2) 新山……陸上部の後輩。

(注3) コミュカ……コミュニケーション能力。

(注4) 酒井……陸上部の後輩。

(注5) ピッチ……一歩にかかる時間。足の回転。

(注6) ストライド……一歩の長さ。歩幅。

(注7) 驀進……まっしぐらに進むこと。

(注8) 足長……かかとかからつま先までの一つ分の長さ。これで、バトンパスのタイミングをはかる距離をとる。

(注9) マーカー……スタートの目安となる印。

1 400つてのは微妙な距離だ とあるが、どのような距離を指しているか。

ア コンディションをピークにもつていくのには難しい距離。

イ 自己ベストを出せば、なんとか都大会に出場できる距離。

ウ 世界記録と支部の大会の記録の差が大きくなる距離。

エ 長くもないが、全力で走るには短くもない距離。

2 足がすかすかと空を切っている とあるが、どのような様子を表しているか。

ア 走っているのに、力が入っていない様子。

イ 走っているのに、後輩の声で集中できない様子。

ウ 走っているのに、スパイクが合わない様子。

エ 走っているのに、過去の記憶が頭から離れない様子。

3 「オメデトウ」とつぶやいたけど、虚しく響く とあるが、ここでの脊尾の気持ちはどれか。

ア 雨夜がトップで走る様子を見て、予想より順位が落ちそうなのに喜べない気持ち。

イ 雨夜が好調に走る姿を見て、うまくいかない自分と比べて素直に喜べない気持ち。

ウ 雨夜がスピードに乗る様子を見て、トップでゴールしてほしくなかったという気持ち。

エ 雨夜が嬉しそうに走る姿を見て、うらやましがこみ上げる気持ち。

4 それまで何を考えていたのかを、忘れた とあるが、どのような意味か。

ア 受川から雨夜へのバトンパスに目を奪われ、自分は生まれ変われると確信した。

イ 雨夜から受川へのバトンパスに目を奪われ、後悔しない走りをする と決意した。

ウ 受川から雨夜へのバトンパスに感動し、前向きでない思いが吹っ切れた。

エ 雨夜から受川へのバトンパスに感動し、抱えていた三人への罪悪感から解き放たれた。

5 美しい行為 とはどのようなことか。五字以上、十字以内で説明しなさい。

6 なんか馬鹿馬鹿しくなる一方で、清々しい とあるが、ヨンケイに対するこのときの脊尾の気持ちはどれか。

ア タイムをあつさり と更新し、練習をしてこなかった自分はリレーに必要な人間だと感じている。

イ タイムが本番でも思うように伸びず、インターハイへの道は絶たれたが後悔はないと喜んでいる。

ウ タイムがあつけなく更新され、無我夢中になってリレーを走ることの気持ちよさを感じている。

エ タイムをすんなりと更新し、バトンを渡すときに詰まっていたことは忘れて喜んでいる。

青木さんの学校では、生徒会主催でペットボトルのキャップを回収しています。次は、ペットボトルのキャップ回収に関する【会議の記録】と、地域の方々へ協力を求める【案内文】です。これらを読んで、後の1から4までの問いに答えなさい。

【会議の記録】

〈生徒会主催〉ペットボトルキャップ回収計画

■目的

ペットボトルキャップの回収を通じて、全校生徒のリサイクルへの意識を高める。

■回収期間

九月十五日（水）～九月二十二日（水）

■回収方法

・各自、生徒会室前に設置された回収箱に入れる。  
 ・地域の方にも呼びかけて回収する（正門横の回収箱に入れてもらう）。

■注意点

・調味料、洗剤などのキャップ不可  
 ・キャップ↓水洗いすること、汚れを落とすこと  
 ・キャップにシールが貼つてある場合↓はがすこと



令和3年9月1日

①

### ペットボトルキャップ回収への御協力をお願い

( ② ) 皆様、いかがお過ごしですか。

( ③ ), 第一中学校ではリサイクルへの意識を高めることを目的として、毎年ペットボトルのキャップを回収しています。昨年度も地域の皆様にたくさんの御参加をいただきました。今年度も継続して取り組みます。

お忙しい中とは思いますが、御協力いただきたく御案内申し上げます。

#### 記

1 回収期間 令和3年9月15日(水)～9月22日(水)

2 回収方法 正門横の回収箱に入れてください。

3 注意事項

○

○

④

ア

地域の皆様  
第一中学校生徒会

イ

地域の皆様  
第一中学校生徒会

ウ

地域の皆様  
第一中学校生徒会

エ

地域の皆様  
第一中学校生徒会

2 【案内文】の( ② )に入る文として最も適切なものはどれか。

ア 木々の緑が目まぶしい今日このごろです。

イ 初秋の季節とはいえ暑い日が続きます。

ウ うらかな日差しが心地よい季節です。

エ 霜が降りるほど秋が深まる季節です。

3 【案内文】の( ③ )に当てはまる言葉として最も適切なものはどれか。

ア 恐れ入りますが

イ つきましては

ウ そこで

エ さて

4 【案内文】の ④ に入る注意事項を、【会議の記録】にある注意点の内容を全て満たすように、箇条書きで二つ書きなさい。なお、文末は敬体にすること。